

和光市総合振興計画審議会第3回会議 会議要旨

開催日：令和元年12月19日（木）9時30分～11時43分

開催場所：和光市役所6階602会議室

出席者：中村英夫委員、関口泰典委員、牧江利子委員、北嶋美栄子委員、浜口武委員、加藤聡司委員、村山喜三江委員、深井征男委員、荒木保敏委員、富澤隆司委員、長田眞希委員、下川初江委員、峯岸正雄委員、船田孝司委員、福田敬委員、吉田亨委員、河村佳奈委員、川村義一委員、小林修治委員、小林貴博委員、佐藤嘉晃委員、信太知永子委員、村谷芳枝委員、橋本久委員（順不同24名）

欠席者：富岡健治委員、樋口弥委員、砂永健二委員、栗野正行委員（順不同4名）

事務局：奥山次長、渡辺主幹、山本統括主査、岩瀬主査、藤田主事補

コンサルタント：吉田、黒丸、山本

傍聴者：2名

次第：

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 第五次和光市総合振興計画基本構想の策定経過と今後の予定について（資料1）
- 3 議事
 - (1) 第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子（案）について（資料2、資料3）
 - (2) 第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子（案）のパブリックコメントの実施について（資料4）
 - (3) 審議会部会に係る委員（部会長等）の決定について（資料5）
- 4 その他
- 5 閉会

事務局

会議前に資料の確認をさせていただきます。

配付資料一覧については、次第をご参照ください。

不足などがございましたらお知らせください。

また、本日の会議は、市民参加条例に基づき、公開とし、傍聴席を設けておりますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

それでは、会長、よろしくお願いいたします。

1 開会

中村会長

みなさま、おはようございます。本日は、お忙しい中、お集りいただきましてありがとうございます。

それでは、「和光市総合振興計画審議会 第3回会議」を開会いたします。本日の会議は、お配りした次第に沿って進めさせていただきます。

2 報告

(1) 第五次和光市総合振興計画基本構想の策定経過と今後の予定について

中村会長

それでは、次第「2 報告」に入らせていただきます。

第五次和光市総合振興計画基本構想の策定経過と今後の予定について、事務局より報告をお願いします。

事務局

それでは、第五次和光市総合振興計画基本構想の策定経過と今後の予定について、ご報告いたします。資料1をご覧ください。

これまで、構想骨子（案）の策定に向けて、人口推計などの基礎調査、市民意識調査や和光100年まちづくり会議などの市民参加、策定委員会・検討委員会・職員プロジェクトチームといった職員参加の取組を進めてまいりました。

今回審議いただく構想骨子の関連といたしましては、和光100年まちづくり会議の第1回・第2回での市民意見を基礎とし、若手職員による職員プロジェクトチームの検討を経て、構想骨子（案）を作成し、庁内の策定委員会などでの検討を重ねてまいりました。

若手職員による職員プロジェクトチームにつきましては、4回全てが終了いたしました。

第1回は、9月1日に開催された和光100年まちづくり会議のキックオフ集會に若手職員が参加する、という形で取り組みました。

第2回につきましては、10月25日に開催されました。全4チームに分かれて、「市民生活の目標像」について、それぞれのチームが3つの目標像を分担し、和光100年まちづくり会議でのキーワードなどをベースに、目標像ごとの目指す姿の具体化を行い、現状と課題の整理を行いました。

11月8日に第3回が開催され、課題解決に向けて必要な取組の洗い出しを行いました。

11月22日に第4回が開催され、プロジェクトの整理を行い、KPIの検討を行いました。

また、和光100年まちづくり会議の第3回が12月8日に開催され、基本構想骨子（案）を踏まえた課題解決策の検討が行われました。なお、最終回の第4回については年明けの1月19日に予定されており、市民一人一人が取り組めることについての検討を行ってまいります。

職員プロジェクトチームの第3回・第4回や和光100年まちづくり会議の第3回・第4回の成果については、年明け以降に作成を進めていく素案策定にあたり活用してまいります。

今後の主な予定につきましては、今回の審議会でご審議いただきます構想骨子（案）、パブリックコメントの実施などにつきまして、12月26日の全員協議会にて議会に説明を行ったうえで、年明けの1月14日から2月2日までの期間でパブリックコメントを実施します。パブリックコメントの詳細につきましては議事の（2）でご説明いたします。

また、年明けの1月7日から10日にかけて庁内の課長級の職員で構成される検討委員会の部会を開催いたします。こちらの部会の中で、構想骨子（案）の内容を踏まえて現在作成作業を進めている個別施策調書の検討を行っていきます。こちらの部会での検討を踏まえ、1月27日と2月5日に行われる総合振興計画審議会の部会において、個別施策についてご審議いただき、構想素案の作成を進めてまいります。

報告は以上です。

中村会長

ありがとうございました。前回の審議会以降、職員ワークおよび100年まちづくり会議を行ったことと、今後の予定についてのご説明がありました。ここまでの報告について、ご質問等はございますか。

3 議事

(1) 第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子（案）について

中村会長

それでは、次第「3 議事」に入らせていただきます。

まず、(1)第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子（案）について、事務局より説明をお願いします。

審議の進め方ですが、ある程度のまとまりごとに区切って審議を行っていきたいと思います。最初は「将来都市像」について、次に「目標像の全体像」について、その後「目標像1～3」、「目標像4～7」、「目標像8と9」、「目標像10～12」と分けて議論させていただきたいと思います。まずは将来都市像についての説明をお願いいたします。

事務局

それでは、(1)第五次総合振興計画基本構想 構想骨子（案）について、ご説明いたします。

資料2をご覧ください。

まず、1枚めくっていただき、目次をご覧ください。構想骨子につきましては、将来都市像及び市民生活の目標像から構成されます。

1ページ目をご覧ください。それではまず、将来都市像についてご説明いたします。将来都市像につきましては、こちらに記載されております「みんなをつなぐ ワクワクふるさと 和光」という案を示させていただきます。

2ページ目には、それぞれの言葉に込められた意味を示させていただきます。

まず、「みんなを」につきましては、第四次和光市総合振興計画における将来都市像「みんなでつくる快適環境都市 わこう」の考え方を継承し、まちづくりの主体は市民をはじめとした「みんな」であることを示しています。

そのうえで、市内だけにとどまらず、他都市や世界とのつながりなども視野に入れ、積極的につなげていく意思を表明するために、「みんなで」や「みんなが」ではなく、「みんなを」という表現にしています。

第2回審議会において、「みんなをつなぐ」よりも「みんながつながる」の方が落ち着きが良いのではないか、という意見をいただいておりますが、そのような趣旨で「みんなを」という表現のままとすることを検討しております。

次に、「つなぐ」につきましては、総合振興計画策定に向けて開催した和光100年まちづくり会議では、住み続けたいまちになっていくためには、人と人とのつながりが豊かであることが重要であるという意見が多く出されました。若い世代の転出入が特徴の1つである和光市においては、人とのつながりが自然発生的に生まれるのを待つだけではなく、意識的につながりを作っていくことが求められます。

また、人のつながりだけではなく、道路や交通などを含めたインフラ面でのネットワークを強化していくことや、大切な自然環境や歴史資源などを次世代に引き継いでいくことも「つなぐ」という言葉に込めています。

次に、「ワクワク」につきましては、和光市に暮らす人にとっても訪れる人にとっても、「楽しい」と感じられたり「楽しいことがある」と思えたりできるようなワクワク感のあるまちを目指します。活力や賑わいがあり、新しいことが次々と沸き立つような状態をイメージしています。

また、「湧く」という言葉の中には、和光市の大切な地域資源である「湧き水」を掛けており、和光市の特徴である自然資源を守っていく意思を示しています。

第2回審議会において、ワクワクという表現は今年も災害が多い中で被災者のことを考えると、その気持ちにはなれないという旨のご指摘をいただきましたが、活力や賑わいをイメージしたものであり、他者を傷つけるような趣旨で伝わるリスクは大きくはないと考え、この表現のままとすることを検討しております。

最後に、「ふるさと」につきましては、和光市は東京都心部に直結する立地にありながら、緑が豊かで潤いのあるまちであり、そうした都市と田舎の良さを兼ね備えた状態を維持していくことを「ふるさと」という言葉に込めています。

また、和光市に愛着やシビックプライドを持つことで、和光市を「ふるさと」と感じ、いつまでも住み続けたいと思える市民を増やしていきます。

なお、第2回審議会でも、第四次和光市総合振興計画での将来都市像「みんなでつくる快適環境都市わこう」を今後も引き続いてはいかがか、とのご意見がございましたが、確かに将来都市像は継続性があった方がよいという観点はあるものの、第四次和光市総合振興計画での将来都市像は2020年を目標とした将来都市像であることから、2030年を目標とする第五次和光市総合振興計画においては改めて将来都市像を検討する必要があり、和光100年まちづくり会議での市民参加の結果なども勘案したうえで新たな将来都市像を検討しているところですので、事務局としては新たな将来都市像を決定していくという方向で検討していきたいと考えております。

将来都市像についての説明は以上となります。

中村会長

ありがとうございました。

前回の議論を踏まえた上での事務局から再度の提案となります。この将来都市像は、和光市が目指すものを端的に示すもので、この計画のポイントとなる部分です。委員の皆さまから、率直なご意見をいただければと思います。

どなたかご意見・ご質問等はございますか。

峯岸委員

前回、今回と事務局から丁寧な説明をいただきまして、「みんなをつなぐワクワクふるさと和光」を形成してきた経過を知ることができ、ずいぶんいろいろ考えられた一つの結論だと思いました。しかし、別の見方から見ると最後の「和光」の部分にどの街を入れても成り立ってしまうと思います。あまりにも普遍的で教科書的だと思います。決して否定しているわけではありませんが、和光の強みを押し出し切れしていないと感じました。

中村会長

ご意見ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

小林（修）委員

今のご意見に関連しますが、和光市の特徴やブランドがどうしたら増していくのか、和光市が他の地域に比べてどのような特徴があるのかがいまいちピンと来ません。和光市をどうやったら選んでもらえるかという視点が見えてこない。和光市にはたくさんの資源があると思いますが、どうも欠落しているようで、折角の資源が活かされていないと思います。どういう形でいろんな人に来てもらい、幸せに暮らしていただけるかというキーポイントがぼやっとしている印象を受けます。

中村会長

本日は骨子ということでまだ直す余地もありますし、本文の中で補足する方法も考えられます。事務局は今のご意見についてどのようにお考えですか。

事務局

他の街に置き換えても通用してしまうというご意見についてですが、どのようなフレーズを選ぶのかという意味では実際的にどの自治体もこのフレーズを当てはめることにはならないだろうと考えています。例えば、工場を中心に成り立っている街や東京都心部では「ふるさと」などのフレーズは選ばないと思います。その観点から考えると和光 100 年まちづくり会議を通して、市民の今後 10 年間の願いがどこにあるのかを踏まえた今選ばれるべきものになっていると考えております。しかし、例えば朝霞などが入った際には通用する点については理解しております。

特徴資源を活かしていないのではないかとご意見については、どのような資源を具体的にイメージしていらっしゃるのかお伺いできると幸いです。和光 100 年まちづくり会議の中で和光市の資源として話が出ていたのは主体的に活動されている「人」という財産、湧水などの自然資源がありつつも交通の利便性があるという「良いところ取り」の 2 点でした。市民意識調査においてもこれらが大勢を占めており、この意見を活かしていくと現在のような打ち出し方になると考えております。

小林（修）委員

工場や東京都心との比較ではなく、あくまで郊外において、どこを選んでもらえるかということです。和光市を指名する良さは何かです。資源は他の地域とどこが違うのかを出すべきであり、例えば理研、先端技術の集積、福祉の IT 化、国際高校の海外との結びつき、米軍アンテナ基地返還の可能性など、非常に夢があります。そういったものが挙げられず普遍的なものになってしまっていることは非常に残念です。ファミリー層が和光市の価値に賛同して住んでくださることは将来の安心につながります。また、和光を理解してくれる人が住むことで質が上がり、地価も上がってくると思います。

佐藤委員

前回私が指摘したのは「みんなをつなぐ」ではなく「みんながつながる」が良いのではということでした。全国に行くことがあります、和光市を知らない人はあまりいません。それは既に繋いでいるからだと思います。例えば全国から税務署の担当者が税務大学校に来ます。横浜とは副都心線で繋がっています。

繋ぐといった場合には主語が必要です。市役所や市民が繋ぐというのも変な話ですから、状態として繋がるということを前面に出したほうが落ち着きます。主体と状態どちらを目指すかで変わると思います。

河村委員

私は市民ワークショップに参加させていただいたので、市民の方々とのお話を振り返ると今回の将来都市像の中身はよく分かります。住み続ける上でこういう風なまちづくりにして欲しいという意見になっていると思います。ブランド力などを一つの強みにしていきたいというご意見はよく分かりますが、理想と現実があり、市民の方と審議会の委員のみなさんとの間には食い違いも感じます。この間をどのように埋めていくかを考えると、10年後自分がどのような和光に住んでいたいかということになります。和光は3路線が入る交通の便が良いところではありますが、それをするために和光ができたのかと考えるとそうではなく、和光市民にとってどうあるべきかを考える必要があると思います。

船田委員

積極的につなげるということは重要なことだと思います。この言葉にはさまざまな意味が込められています、その意味を汲み取るにはまだ言葉選びが雑で、例えば趣味や興味が似ている人をつなぐというのは積極的につなぐことにはならないと思います。勝手につながります。もう少し言葉の選び方を丁寧にすると考え方がもっと表に出てくるので、イメージがはっきりすると思います。

関口副会長

私も100年まちづくり会議に出させていただいております。参加者の中には市民団体の代表の方もいらっしゃいます。個々の想いだけでなく、その方が所属する市民団体の想いもありますので、どのような言葉を持つてくるかは配慮しなければなりません。

信太委員

みんな「を」だと「他都市や世界とのつながりなども視野に入れ」というニュアンスが伝わりにくく、

漠然とした表現に感じました。

富澤委員

私はこれまでの説明を聞いても、やはり現在の将来都市像「みんなでつくる快適環境都市わこう」は外せないと思います。将来都市像は途中でブレてはいけない、また、そう簡単に変えてはいけない、と思います。ご提案のワクワクという表現ですが和光市はたまたま台風被害が少なかったから言えるのです。台風等の災害は対岸の火事ではありません。もし和光市が甚大な台風等の被害に見舞われ多くの市民が犠牲になったらワクワクなんて気持ちにはなれません。私はまちづくりの基本は、市民が安全安心に暮らせるまちが第一だと思っています。

そこでこれまで市民に定着した「みんなでつくる快適環境都市わこう」を将来都市像として引き続き目指すべきではないでしょうか

吉田委員

将来都市像がまるまりすぎていると感じました。例えば「みんなをつなぐ先端都市わこう」にすると少しイメージが強くなると思います。

峯岸委員

現在の将来都市像には「環境」という言葉が入っています。地球温暖化問題などに代表されるように、今この言葉は非常に大きな重要性を帯びてきています。折角、前回の将来都市像に入れていたのになぜ外してしまうのかと思いました。

川村委員

前回の将来都市像を変えることには理由があると思います。その理由が今回の将来都市像に入っていないと必要性が出てきません。また、一つ一つの言葉が抽象的で優しい言葉が多かったです。「みんなを」に含まれる主体が市内なのか、市外なのか、地域なのか、埼玉と東京なのか、世界なのか、検討する余地があると感じました。

加藤委員

「ワクワク」の意味として湧き水が含まれていますが、坂下の湧き水公園がなくなったことを考えると和光市の今の政策の中で、湧き水を守っていこうという意志が感じられません。

小林（修）委員

どういう戦術で将来都市像を実現していくのかが問われていると思います。その時の要素として先端都市やハイセンス都市が活かされると思います。大和町だった頃にホンダを誘致しましたが、その頃はどんな会社かわからない赤字会社でした。大和町は他の自治体に先駆けて誘致しました。そのような先端的な考えを大切にすることに期待しています。

荒木委員

私はこの将来都市像に賛成です。「ワクワク」の中身は自分たちで考えることだと思います。

中村会長

ありがとうございました。将来都市像については感じ方や捉え方がそれぞれあると思います。引き続き事務局は本日の意見を参考に考えていただきたいと思いますが、全てを0に戻して考えることは大変なことです。現在のものを基本として検討いただければと思います。

それでは、続きまして、第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子（案）の中の3ページ・4ページの市民生活の目標像の全体について、事務局より説明をお願いします。

事務局

3ページ目をご覧ください。3ページ目には、将来都市像「みんなをつなぐ ワクワクふるさと 和光」を実現するため、和光市で生活する一人ひとりの市民生活をイメージした「市民生活の目標像」を設定しています。

こちらの目標像につきましては、第2回で審議していただいた内容と概ね同様ですが、近年の交通政策に関する重要性の高まりを踏まえて目標像2で交通関連の目標像を特出したことや、和光100年まちづくり会議におけるキーワードワークなどで出された意見などを反映した名称の変更を加えております。また、3ページの市民生活の目標像の図表において、イラストなどを使って示した方がより分かりやすいのではないかと、策定委員会での意見がありましたので、イラストを加えました。

4ページに目標像に関する考え方を示させていただきました。

目標像1「良好な居住環境が得られる」、目標像2「安全かつ快適に移動できる」、目標像3「身の回りの不安が軽減される」については、日々の生活の基盤が整っている状態を示す目標像です。

「つながり」や「ワクワク」などの豊かな気持ちが得られるようにするためにも、まずはその前提として、生活の基盤が整っていることが必須となります。そのため、良質な居住環境が得られるとともに、身の回りの不安が軽減された状態としていく必要があります。また、高齢化などに伴い、移動手段の確保の重要性が高まってきたことを踏まえ、安全かつ快適に移動できる環境を整えることが必要です。

目標像4「子どもが自己肯定感を持ち健やかに育つ」、目標像5「安心して妊娠・出産・子育てができる」、目標像6「高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けられる」、目標像7「誰もが、自立した生活と社会参加ができる」については、それぞれのライフステージごとの目標像です。

誰も人生の中には様々なライフステージがあり、その中には特に周りのサポートが必要なステージもあります。そうしたライフステージにあっても、誰もがそれぞれのライフステージで充実した生活を送れることを目指します。

国連サミットで採択された2030年までの国際目標であるSDGs（Sustainable Development Goals）では、誰も取り残さない世界の実現を目指すこととされていますが、本市においても苦しい状態にある方を取り残すことのない地域を目指します。

目標像8「健康で日々を暮らしている」、目標像9「いきいきと仕事をし続けられる」については、健康で働き続けることができている状態を示す目標像です。

この長寿社会の中で長く健康でいられるためには、一人ひとりが健康づくりに取り組むことが必要です。また、働きかたが多様化する中でいきいきと働き続けられるためには、市内産業の充実などを通じ、法人・個人ともに、仕事をし続けられる環境が求められます。

最後に目標像10「趣味などを通じて充実した時間を過ごせる」、目標像11「まちや人とつながり、心豊かに過ごす」、目標像12「シビックプライドを持つ」については、これまでの目標像1から目標像9までの状態に支えられ、心豊かに、満足度の高い生活が送れる状態を示しています。

日々をワクワクして過ごし、人とつながりながら心豊かに過ごすとともに、和光市を「ふるさと」として意識することでシビックプライドを持ちながら、「みんなをつなぐ ワクワクふるさと 和光」をみんなで作っていくことを目指します。

それぞれの目標像ごとの個別施策との対応については資料3をご参照ください。

説明は以上となります。

中村会長

ありがとうございました。

この市民生活の目標像は、和光市で生活する一人ひとりの市民生活をイメージするものとなっています。

目標像の全体についての審議の後に、目標像1から12について個別に審議を行いますので、まずは全体的な市民生活の目標像について、どなたかご意見・ご質問等がありますか。

佐藤委員

全てに言えますが、目標なのですから「良好な居住環境が得られる」ではなく「良好な居住環境の確保」というように体言止めにしたらいかがでしょうか。施策が上手くいかなかったら逃げられるような書き方に読めます。また、目標像4で「子どもが自己肯定感を持ち健やかに育つ」とありますが、誰にでも当たり前のことではないでしょうか。目標像が変に限定的になっている気がします。

事務局

今回は市民の意見を総合計画に反映していこうという考え方になっています。そのため目標像についても市民目線の構成になっています。例えば、行政目線では「安全かつ快適な移動の確保」ですが、市民の方がどういう状態になっていくのかで考えるとこのような表現となります。

また、「子どもが自己肯定感を持ち健やかに育つ」については、現在、和光市では「子ども・子育て事業計画」を同時並行で策定しています。事業計画では、総合振興計画以上に子育て世代の意見をきめ細やかに収集しながら政策を検討しており、その中で理念として検討しているのが「子どもが自己肯定感を持ち健やかに育つ」です。そのため、目標像4は「子ども・子育て事業計画」の議論と合わせながら書かれたものです。

中村会長

ありがとうございます。他にございますか。

関口副会長

100年まちづくり会議では行政施策の細かい事業については説明されていません。つまり市民会議は市の物語を考える場です。審議会では行政・市民・議会の協働まちづくりを進めていかなければなりません。

事務局

和光 100 年まちづくり会議では素直に市民の意見を収集したいと考えております。審議会のように細かく実施する選択肢もありますが、そうすると参加できる市民の方が限られてしまうと思いますので、比較的参加しやすい内容になっています。

佐藤委員

今の説明を聞いて、よく分かりました。市民ワークショップを通して将来像を考えた説明があれば、疑問は出てこないと思います。

中村会長

私からも一つだけ申し上げます。環境というキーワードが非常に重要になっている中で、言葉だけで見ると目標像 1 の「居住環境」にしか「環境」という言葉が入っていません。そして環境という言葉の使われ方は身の回りの不安というジャンルが多い点が気になりました。もう少しキーワードとして目標像の中に盛り込んでも良いのではないかと思います。パブコメなどと合わせてご検討いただければと思います。

福田委員

3 ページの目標像の描き方として、一番上に 10 があることに違和感を感じました。目標像 1・2・3 が生活基盤についての目標像のため、下にあるのだと思いますが、1 を上にして、1 から始めるので良いと思います。また 4 つのまとまりが作られていますが、このまとまりを示すタイトルを 4 ページ以降にも載せておいた方が分かりやすいと感じました。

富澤委員

目標像 12 のシビックプライドという言い方は私にはピンと来ませんでした。市民の方にも分かりやすい用語に変えるか注釈を入れるなどの配慮が必要だと思います。

中村会長

ありがとうございます。分かりやすい伝え方にしていいただければと思います。

中村会長

続きまして、第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子（案）の中の 5 ページからの具体的な目標像ごとについて、委員の皆様からの意見を伺っていききたいと思います。

審議につきましては 3 ページにありますような目標像の大きな 4 つのくりに分けて進めていきたいと思っています。

まずは目標像の土台となっている「日々の生活の基盤が整っている」の目標像 1 「良好な住環境が得られる」、目標像 2 「安全かつ快適に移動できる」、目標像 3 「身の回りの不安が軽減される」について審議したいと思います。

事務局より説明をお願いします。

事務局

5 ページ目をご覧ください。5 ページからは市民生活の目標像ごとに「どのような姿を目指したいのか」「主要な課題」は何であるのかを整理したものとなっております。こちらにつきましては各課から提出された課題整理シートや、和光 100 年まちづくり会議等での市民の意見を踏まえ、職員プロジェクトチームにて検討したものを事務局で精査した内容となっております。

目標像 1 良好な居住環境が得られるについては、

- ・利便性と快適性を備えた住みやすい居住環境が整っている
 - ・災害に強いインフラ・ライフラインが整っている
 - ・和光市駅周辺が和光の顔となる魅力的な場となっている
- の 3 つを

目標像 2 安全かつ快適に移動できるについては、

- ・歩行者や自転車利用者の安全性が確保されている
 - ・トラックなどの通過交通が抑制されている
 - ・公共交通の利便性が高い
 - ・新たなテクノロジーに対応した快適な交通環境が得られる
- の 4 つを

6 ページ目になりますが、

目標像 3 身の回りの不安が軽減されるについては、

- ・災害や犯罪などへの対策が整っている
 - ・身近な問題を気軽に相談できる窓口や相手があり、安心して生活できる
 - ・環境問題に対して適切な対応ができています
 - ・差別などが無く、お互いの個性を尊重しあえる
- の 4 つを目指す姿として示しております。

説明は以上となります。

中村会長

ありがとうございました。

この部分は骨子からさらに膨らんだ書き方をするのでしょうか。

事務局

「どのような姿を目指したいのか」と「主要な課題」に加えまして職員プロジェクトチームで検討した目標像に関連する指標を加える予定です。また、和光 100 年まちづくり会議で検討している「市民としてできることは何か」を加えたいと考えております。

中村会長

ありがとうございます。全てを網羅しているわけではなく、主要なものであるということが分かりました。このことを踏まえて、何かご質問ご意見はありますか。

小林（修）委員

あまりに範囲が広すぎます。

信太委員

目標像2で「トラックなどの通過交通が抑制」とありますが、抑制できるものなのでしょうか。

事務局

通過交通の抑制に対応する課題として254号バイパスの未接続があります。この課題に取り組むことで根本的にトラックなどの流入を減らすことを考えています。

佐藤委員

今の質問に関連しますが「トラックなどの交通が抑制されている状態を目指しましょう」というのは「和光市の生活道路が危険でない状態を確保しましょう」という姿ではないでしょうか。その中の一つとして254号があるのだと思います。書き方に具体的なものと一般的なものが混在しているように感じます。この書き方の状態で見ても意見の出しようがないです。

小林（貴）委員

市民目線での目標像であれば、トラック抑制は目標像1に入るのではないかと感じました。また、目標像3に「身の回りの不安が軽減される」とありますが、「身の周り」という表現に疑問があります。貧困や差別問題などは「身の回り」というより「自分自身」の暮らしではないでしょうか。

村山委員

南と北口の格差に疑問を感じています。例えば駅の南口にはエスカレーターができましたが、北口にはありません。また、北口に新しい自転車置き場ができましたがその目の前にある交差点には右折レーンがなく、一台が右折できないために朝は大渋滞になります。もし駐輪場を作った際に右折レーンのことも考えてくださっていれば、もっと良かったのにと感じています。北口の開発が非常に遅れています。

事務局

ご意見ありがとうございます。12個の目標像には具体性にばらつきがあるかもしれませんが、鶏が先か卵が先かというジレンマがあります。全ての施策を行政が決めているのであれば市民参加は無意味になってしまいますので、まず市民参加のワークショップ結果を踏まえた目標像を立てて進めたいと考えています。

中村会長

まだこれから修正が入る部分があり、今回の審議会では大きな意味での確認であるということ、今回の総合振興計画の策定はチャンジ的な試みであることが分かりました。ここで5分間の休憩に入りたいと思います。

(休憩)

中村会長

それでは再開いたします。休憩中に事務局と確認をとりましたが、今回はチャレンジ的な試みとして出された構想案ですので、3ページにある目標像の切り口やまとめ方に対してご意見を頂きたいというのが趣旨であるとのこと。一度、残り3つのブロックを簡単に説明していただいて、全体の方向性について議論したいと思います。それでは、「誰も取り残されないSDGsの考え方に基づき、それぞれのライフステージを充実させる」、の中の目標像4「子どもが自己肯定感を持ち健やかに育つ」、目標像5「安心して妊娠・出産・子育てができる」、目標像6「高齢になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられる」、目標像7「誰もが、自立した生活と社会参加ができる」について審議したいと思います。

事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは時間も押しておりますので、簡単にご説明いたします。6ページ目をご覧ください。

目標像4は、子どもが自己肯定感を持ち健やかに育つとなっております。

7ページ目をご覧ください。

目標像5は、安心して妊娠・出産・子育てができるとなっております。

目標像6は、高齢になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられるとなっております。

8ページ目をご覧ください。

目標像7は、誰もが、自立した生活と社会参加ができるとなっております。

説明は以上となります。

中村会長

ありがとうございました。

どなたかご意見・ご質問等はございますか。

荒木委員

表記の仕方についてです。目標像7で「障害者」とありますが、第四次総合計画ではチャレンジドと表現していますので、第四次に合わせてはいかがでしょうか。

佐藤委員

目標像4のどの部分に自己肯定感が入るのか分かりません。

事務局

基本的な考え方としては、子ども・子育て会議の中ですべてが集約されるという考え方ですが、検討させていただきます。

河村委員

SDGsの考え方に基づき目標像4・5・6・7があると思いますが、自己肯定感についてもそこから来るものではないかと思えます。新しい取組なので明確な表現が難しいところがあると思えます。

小林（貴）委員

自己肯定感という書き方は他の目標像のフレーズに比べて非常に特徴的で、強い思い入れを感じます。私は「自らをかけがえのない存在」として考える1つ目の項目が自己肯定感であると捉えています。

少し気になったのは、子どもという書き方です。行政的には子どもとは18歳までが該当すると思います。そのため、子どもの居場所として学校や児童館が挙げられますが、一般的には思春期にあたる中学高校生の居場所も問題であり、その場合は児童館ではいづらと思います。かといってコンビニの前でたむろっていれば通報されますし、池袋の盛り場を徘徊すれば補導されます。思春期の若者たちの居場所を想定した課題の書き方にも配慮していただきたいです。

村谷委員

目標像4・5についてです。まず、自己肯定感についてですが、自己肯定感を育てて愛着形成を持たせることで最終的には大きくなった時に自分で考えて動ける力を持つ子どもになることが国の保育指針として推されています。その上で、この目標像を見ると人間力をつけるという最終的な指針まで入っておらず、粗いと思いました。目標像4・5は子育て世帯から乖離していて響いてこないと感じました。

長田委員

私は普段は子育て支援センターに勤務しており、お母さん方の生の声を伺っています。目標像5に「子育て世代の家庭が定着せず、市外に転出してしまいます」とありますが、和光市は子育て支援に関しては先進的な取組をされているのでお母さん方の満足度は高くなっています。しかし、住環境が追いついていない問題があります。最初は職場に近いということで和光に来られる方が多いようですが、子供が生まれて大きくなるとアパードでは手狭になります。しかし、ちゃんとした家に引っ越したいとなって家を探し始めると和光はとて高いため和光での住宅を諦めて、郊外に引っ越すというのが実情です。そのため、目標像5で定着について触れられていますが、実は居住環境の要因が非常に大きいです。おそらく課題は一つの目標像ではなく、いろいろなところに派生してくると思います。

小林（修）委員

書かれていることは、日本が抱える課題を和光にブレイクダウンしたにすぎない。将来和光市にとって脅威となる危険因子は何かをもっと市民に話して欲しい。例えば和光市では外国人が増加しているようですが、そういった人たちとどうやって融合したり、ネットワークを作っていくか、共栄共存していくのか、また、最近笹目橋が危険水位になったことなどが今後大きな課題になります。市民から現状を聞くだけではなく、市で持っている先端情報を出してほしい。その上でロードマップを作ることが重要ではないでしょうか。

富澤委員

表記についてですが、「障害」という言葉を「障がい」とする自治体が多くなっています。和光市ではどのようになっていますでしょうか。

中村会長

その件については、先ほどお話がありましたが、一度事務局での確認整理をお願いします。

中村会長

それでは続きまして、「健康で働き続けることができる」の中の目標像8「健康で日々を暮らしている」、目標像9「いきいきと仕事をし続けられる」と「心豊かに満足度の高い生活が送れる」の中の目標像10「趣味などを通じて充実した時間を過ごせる」、目標像11「まちや人とつながり、心豊かに過ごす」、目標像12「シビックプライドを持つ」について、まとめて審議したいと思います。

事務局より説明をお願いします。

事務局

8ページ目をご覧ください。

目標像8は、健康で日々を暮らしているとなっております。

9ページになりますが、目標像9は、いきいきと仕事をし続けられるとなっております。

9ページ目をご覧ください。

目標像10は、趣味などを通して充実した時間を過ごせるとなっております。

最後の10ページになりますが、目標像11は、まちや人とつながり、心豊かに過ごすとなっております。

目標像12は、シビックプライドを持つとなっております。

説明は以上となります。

中村会長

ありがとうございました。

どなたかご意見・ご質問等はございますか。

関口副会長

目標像12についてですが、シビックプライドは「持つ」ものではなく「育む」ものです。後者の方が適切ではないでしょうか。

中村会長

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

小林（貴）委員

目標像9についてです。子育てや高齢者などについては、1日中和光近辺にいらっしゃる方の視点が多いと感じます。仕事についても個人商店や市内事業所などに着目しているようですが、和光はベッドタウンとして都心に通勤している人が圧倒的に多いのが現状です。そういった人が和光市でワーカーとしてどのように暮らしていけるのかという視点が希薄であると思います。

福田委員

目標像8についてです。健康は第一ですので、病気にならない、健康寿命を大切にするなど、関連の話をもっと強調された方が良いと思います。

目標像11についてです。市内には大きな企業などがありますので、一定期間だけ和光に住む方も多

いと思います。そういった短期的な人たちにもつながりを作れる取組があっても良いと思います。

浜口委員

目標像9についてです。私は商工会の担当者として述べさせていただきます。古くからある個人商店が減っているとありますが、今度和光市には駅ビルができ、チェーン店はさらに増加します。個人商店では太刀打ちできない状況も出てきています。この街を支えているのは先日の台風の際に活躍した消防団に代表されるように、地域の小規模事業主でもあります。地域を支える小規模事業主という視点も加えていただければと思います。

村谷委員

目標像10についてです。目標像10は抽象的でパブコメで意見を書きにくいと思います。趣味を充実させる場であれば樹林公園などのキーワードを一つ盛り込むことで想像がしやすくなります。各目標像にどのような姿を目指したいかが響くキーワードを置いていくと良いと思います。和光市らしさが見え、意見が出しやすくなります。

河村委員

目標像11についてです。和光市は支援センターや市民祭りなど、盛んに取り組まれていると思います。もう少しコミュニティ活動の内容を含んだ方が分かりやすいと思います。折角、取組が多いのに内容が薄く感じます。

中村会長

ありがとうございました。

お時間となりましたので、「構想骨子(案)」につきましては、一旦本日いただいたご意見を今後の素案作成にあたり検討していくことを前提に、原案の通りとすることによってよろしいでしょうか。

(2) 第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子(案)のパブリックコメントの実施について

中村会長

続きまして、(2)第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子(案)のパブリックコメントの実施について、事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、(3)第五次総合振興計画基本構想 構想骨子(案)に関するパブリックコメントの実施について、ご説明いたします。

資料4の「基本構想構想骨子(案)に関するパブリックコメントの実施について」をご覧ください。

まず、構想骨子(案)に関するパブリック・コメントの目的について、ご説明いたします。

本市で実施するパブリックコメントについては、最終的な計画案を対象に実施するケースが多くなっていますが、総合振興計画については、市の最上位の計画であること、市民参加を充実させる観点から、その概要である「構想骨子(案)」の段階で一度パブリックコメント実施し、その意見を反映したうえで、

詳細な計画素案の策定を進めてまいります。

次に、パブリックコメント手続の概要についてです。

この度の第五次総合振興計画基本構想 構想骨子（案）につきましては、パブリックコメントの意見提出期間を令和2年1月14日から2月2日の20日間を予定し、周知につきましては1月広報や市HP等を予定しています。

またこのパブリックコメントの実施に伴い、説明会を開催します。1回目は1月19日（日）に市役所の602会議室にて第4回和光100年まちづくり会議の後に行います。2回目は1月20日（月）に坂下公民館の視聴覚室にて開催します。検討結果の公表については令和2年3月頃を予定しています。

その後、第五次和光市総合振興計画基本構想素案に関するパブリックコメントにつきましては令和2年6月頃に実施することを予定しています。

説明は以上となります。

中村会長

ありがとうございました。

この構想骨子だけではパブコメとして分かりづらいと思いますが、その点は問題ないでしょうか。

事務局

構想骨子の作成経過なども公開した上でのパブコメを予定しております。

中村会長

わかりました。これまでの経緯も踏まえてとのことですが、委員の皆様からは何かございませんか。

なければ、「(2) パブリックコメントの実施について」は、この通り進めることでよろしいでしょうか。

一同

異議なし

(3) 審議会部会に係る委員（部会長等）の決定について

中村会長

ありがとうございます。

それでは、続きまして、審議会部会に係る委員（部会長等）の決定について、事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、(3) 審議会部会に係る委員（部会長等）の決定について、ご説明いたします。

資料5をご覧ください。

こちらは、公募委員の皆様には所属を希望する部会についての調査を行い、部会の調整を行いました。公募委員以外の委員の皆様におかれましては、所属する団体で部会の所属を決定させていただいておりますのでよろしくお願いいたします。

総合振興計画審議会部会には、和光市総合振興計画審議会条例第6条3項の規定に基づきまして、部会長を、部会に所属する委員の互選により定めるということになっております。

中村会長

部会長を互選とのことですが、どなたかご提案はありますでしょうか。

橋本企画部長

本審議会におきましては、総務環境分野、文教厚生分野のそれぞれに学識経験者の方がいらっしゃいます。総務環境部会については、会長でもいらっしゃる中村先生に、文教厚生部会については、十文字学園女子大学教授でいらっしゃる吉田先生に部会長をお願いするのが良いと思いますが、皆さまいかがでしょうか。

一同

異議なし

中村会長

それでは、文教厚生部会の部会長に吉田委員を、総務環境部会の部会長に私を推薦する旨の発言がございましたので、その通り決定とさせていただきます。ありがとうございます。

4 その他

中村会長

それでは、最後に次第4「その他」として事務局から連絡事項をお願いします。

事務局

次回、第五次総合振興計画審議会部会は、1月27日（月）2月5日（水）の9時30分から文教厚生部会、13時30分から総務環境部会の開催を予定しておりますので、皆さまのご出席をお願いいたします。なお、部会の開催場所を当初市役所3階庁議室と通知しておりましたが、議事堂3階の第2委員会室に変更になりましたのでよろしくをお願いいたします。事前に送付いたします書類でも併せて通知をさせていただきますのでご確認をお願いいたします。

連絡事項は以上となります。

中村会長

部会については、事務局からの案内の通りとなっておりますので、よろしくをお願いいたします。最後に何かございますか。

佐藤委員

確認です。私たちは審議会の審議委員としてチェックポイントが8つあります。答申書をまとめる際に包括的に見るのか、それぞれの施策について細かく見るのかで大きく異なります。前者ではあまりにもいい加減だと思います。部会での意見の言い方も変わってくると思います。どういう答申になるか、教えていただきたいです。

中村会長

これから検討してまいります、みなさんとしっかり議論した上で考えたいと思います。

中村会長

それでは、以上を持ちまして、第3回会議を終了させていただきます。
ありがとうございました。

閉 会